

## 0.8 × 0.8 ÷ 0.6

## 0.8 × 0.8 ÷ 0.6

相手の話を理解すること、自分の思いを相手に伝えることはとても難しいことです。35年以上も前のことになりましたが、かつて学生のときの記憶に、ある指導教官が述べていた言葉があります。それは、「私たちがどんなに上手に話したとしても伝えられることは思いの8割に満たない。逆に、聞く側もどんなに注意深く聞いても相手が伝えたいことの8割しか理解できない。つまり、コミュニケーションの最大値は6割程度にしかならない」というものです。

コミュニケーションには阻害要因が必ずつきまといまいます。言語、宗教、年代、性差などあげれば切りがありません。特に、話す側と聞く側との間に価値観の相違があった場合、コミュニケーションギャップを埋めることはかなり難しくなります。最近のハラスメント事案などは、まさにその要因を多分に含んでいると言えるのではないのでしょうか。そう考えれば最大値6割もかなりあやしくなってしまう。

もちろん、「0.8 × 0.8 ÷ 0.6」という数値に何らかの根拠があるわけではありません。むしろ感覚的なものだと思います。ただ、言わんとすることはハッキリしていて、双方のコミュニケーションはお互いが思っているほど正しくは伝わらず、むしろ相当のギャップがあることを認識しておかなければならないということです。

## 話すこと

別段、私が高いコミュニケーションスキルを持ち合わせているわけではありません。むしろ、実際の会話では言葉が詰まったり、しどろもどろになったり、「あー言えばよかった。こー言えばよかった」とあとで悔やんだり、時に「言い過ぎた」と自責の念に陥ったりと日々反省しているくらいです。

ただ、一つ気を付けているのは、立場上の発言においてはできるだけ曖昧さを取り除くようにしていることです。そのせいもあってか、いろいろな人から「物事をはっきり言い切りますよね」と指摘されることが多々あります。もちろん時と場合にもよります。なんでも言えたいといったものでもありませんし、状況やタイミング、その場の雰囲気配慮をしなければならぬこともあります。ただ、できるだけ明確に伝えるべきことは伝えるよう心がけていることは確かです。その背景には前述の「0.8 × 0.8 ÷ 0.6」があるからです。

一方で、日本には「以心伝心」という言葉があります。日本人の精神性の一つであり、いかにも落ち着いた所作と佇まいを醸し出す趣きのある言葉だと思えます。ただ、この以心伝心という曖昧な確信が「言わなくてもわかるだろう」といった不確かな根拠となって、誤解や混乱ひいては政策の失敗を招く原因となっているのも事実だと思えます。

## 聞くこと

今回、このコラムを書くかと思いつきかけは、先月、水俣病・患者・被害者と環境大臣との懇談の際に、環境省の担当職員が被害者代表の発言中にマイクを切って発言を遮ったという問題を見たからです。顛末は皆さんも知ってのとおり、後日、環境大臣が関係者に直接謝罪をすることになりました。環境省の対応は明らかに不適切なものであり、大きな混乱を招いてしまうほどの浅はかな行動であったと思います。

私がこの出来事のなかで一番印象に残ったのは、当日マイクを切られた82歳になる水俣病患者連合の副会長が述べた、「落ち着いて話を聞いていただければ安心できる」という切ないコメントでした。マイクを切ったことの背景はわかりませんが、もしかしたら複雑な事情があったのかもかもしれません。たとえそうだとしても、この件が教えてくれるのは、すべての人は聞くこと・話すこと・伝えることをなすがしろにしたり、あきらめたりしてはならないということです。あらためて、胸に手をあてていろいろなことを振り返る、そんな出来事だったと思います。



にかほ市長  
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

